



11月の聖句

ちは おつくりになったものに みちている

詩編104章24節

11月のさんびか

きみがすきだって

こどもさんびか改訂版132

深まる



やっと朝晩が涼しくなり、秋が深まって参りました。ある日、園庭に出ると「見て～。どんぐりの赤ちゃん！」と年中さん数人が集まってきました。まだ蒼い小さなどんぐりを集め、大事そうに小さな掌に握りしめ、そっと開いて見せる子ども達。「見て！どんぐりのぼうし」☆君の掌には、これまた小さな殻斗(かくと)ばかりが数個集められていました。「うわぁ～ちっちゃい…」ふと☆君の顔を見ると、頭には園のベレー帽が…「☆君、どんぐりのぼうしって幼稚園の帽子と形がそっくりだねえ…」☆君思わず「え？」と目線を上にあげ、帽子のイメージを思い浮かべたのか、すぐさま「ふ、ふっ」と柔らかな笑顔になりました。

今月の月主題は「深まる」です。「深まる」と表現するもの、色々ありますよね。例えば、秋が深まる、信頼関係が、人間関係が深まる、興味が、理解が深まる、遊びが深まる、悲しみが、闇が深まる、情が、愛が深まる etc…。

それを子ども達の園生活に当てはめ、考えてみました。社会生活の第一歩を踏み出した子ども達にとって家族と離れて過ごす体験は、ある意味、悲しみが深まる一方だったかもしれません。そんな子ども達のそばには、いつも寄り添う先生達や友達がいました。家族を求め、涙する子ども達の気持ちを押し量り、「◇君や△ちゃんの興味があることは何だろう？」「どうすれば少しでも安心できるだろう？」「どんな関り、言葉をかければいいんだろう？」と毎日考え、祈り、明日は～してみようとそれぞれに色々工夫を重ね歩んできました。初めは知らない人だらけの知らない場所だった園が、毎日ともに過ごすうち、先生や友達のことが少しずつわかってきて、愛着が生まれ、信頼関係が結ばれ、人間関係が深まってきました。同じ空間や時間を一緒に過ごすうちに、友達の持ち物も自然と覚え、誰が何を好きなのかも把握していく子ども達。何か落ちてると「あ！これ◆君の！渡してくる」と一目散に届けに行く姿、何かを見ると「これ、△ちゃんの好きなやつ」と、先生達の方が「へえ～、そんなことまでよく知ってるんだね！」と驚くこともしばしばです。

泣いたり笑ったり、悲しんだり赦したり、騒いだり静かにしたり、色んな感情や感覚を味わいながら、出会いや別れを繰り返し経験して進級し、やがては巣立ちゆく子ども達。

先月末開催されたふたば会(保護者会)主催の秋祭り。ふたば会幹事さん達も4月の立候補から初顔合わせ、月々の定例幹事会にお仕事会、と回を重ねるごとに、話し合う度にお互いを理解し合い、関係が深まっていることに感謝を覚えます。子ども達の笑顔のために、ご家族の喜び、楽しみのために力を結集したお祭りのテーマは「水族館」。細部にも愛情が込められていました。手作りの魚のカラフル帽子を被った子ども達は、いそいそとふたば水族館を満喫していました。「楽しかった!」「ぜんぶ!!」秋空に、子ども達の弾ける笑顔。ふたば会の皆様の表情にも達成感と安堵の喜びが感じられた1日でした。皆様が創られる、ポカポカ陽だまりのような土壌に育つ、ふたばっこ達。これからもたくましく、伸びやかに!【園長】